

令和7年度「外国人留学生のための能楽鑑賞・体験教室」を実施しました

1. 日 時: 令和7年9月23日(火・祝) 12:20 ~ 17:00

2. 内 容: (1)「外国人のための能楽鑑賞教室」鑑賞

演目 狂言:鴈磔、能:清経

(2)能楽体験

3. 会 場: 国立能楽堂

4. 参 加 者: 60名(中国23名、インド5名、ベトナム、韓国各4名、インドネシア3名、

コスタリカ、ミャンマー、モンゴル、台湾各2名、

アメリカ、イタリア、オーストラリア、コロンビア、ドイツ、ネパール、ハンガリー、バングラデシュ、ブータン、

ポーランド、メキシコ、モーリシャス、モーリタニア各1名)

5. 実施状況:

外国人留学生に日本固有の伝統文化を体験する機会を提供することで、日本文化に対する理解の深化を図るため、国立能楽堂において「外国人のための能楽鑑賞教室」の鑑賞と能楽体験をあわせた「外国人留学生のための能楽鑑賞・体験教室」を実施、22か国・地域の外国人留学生60名を引率しました。

最初に、「外国人のための能楽鑑賞教室」に参加し、解説を聞いた後に、狂言「鴈磔」と能「清経」を鑑賞しました。

「鴈磔」は、狩りに出た大名が獲物を探し、さまざまに狙いをつけていたところ、通りすがりの男があっさり石磔で鴈を仕留め、持ち去ろうとします。大名は、「それは自分の雁だ!」と言って、ふたりは諍(いさか)いに。そこに仲裁人が現れて、事態を收拾しようとする話でした。

「清経」は、源平の戦いで都を追われた平家一門。もはや勝ち目はないと絶望した平清経は、豊前国の柳が浦で入水して命を絶ちます。船中に残された遺髪を清経の妻に届けるため、家臣の栗津三郎が、はるばる都へとやってきました。夫の自死を知らされた妻は、嘆き悲しみ、遺髪を受け取ることを頑なに拒むという話でした。

鑑賞終了後は、研修能舞台にて、能楽体験として謡の体験、面の装着の体験と動きの体験をしました。講師は観世流能楽師の伶以野陽子氏、小田切亮磨氏と鷹尾雄紀氏が務めてくださいました。謡の体験では、参加者の謡に合わせて伶以野氏が舞ってくださいました。また、能面を実際に着けるという体験では、実際に使われている能面が着けられたことを楽しんでいらっしや、参加者同士、写真を撮りあう姿が見られました。

最後に、能舞台の前で写真撮影をして終了しました。

鑑賞と体験を同時に行うことで、理解がより深まったかと思われます。英語での説明もあり、参加者はとまどうことなく演目も理解できていたようで、参加者満足度の高いイベントとなりました。

6. 参加者の感想

- ・演目が始まる前の説明は詳細で分かりやすく、外国人である私でも能や狂言の概念や注目すべきポイントが理解でき、より深い鑑賞ができました。日本の伝統を強く感じられたので、まるで昔の日本へタイムスリップしたかのような感覚に陥りました。
- ・能の美しさと狂言の活気に心から感銘を受けました。能の繊細さと狂言の愉快さといった対照的な要素が、この体験を忘れがたいものにしました。
- ・体験教室はとても興味深く、勉強になった。能面をつけたり、短い台本を謳うのは本当に楽しかった。
- ・まさか舞台上に上がって仮面を試着たり、歩き方も体験できるとは思っていませんでした。体験教室を担当してくださった女性の講師も明るく活発で、いろいろサポートしてくれました。

7.能楽体験の様子



鑑の間でのすり足の練習



能面の装着



揚幕を上げる体験



参加者の謡で舞う講師



体験教室の風景



集合写真

以上